

第25回寒地道路連続セミナー

「寒地 ITS ワークショップ」を開催しました

寒地道路研究グループ

1. はじめに

寒地道路研究グループでは、北海道という積雪寒冷地の視点から冬期交通の安全性・効率性の向上などを目的とした、寒地型 ITS 技術の調査研究を推進しています。これら寒地道路技術を広く、行政機関やコンサルタントなどの技術者、また大学や他の研究機関の研究者の方々への情報提供や意見交換の場として「寒地道路連続セミナー」を開催しています。

平成20年8月29日に当所及び北海道ITS推進フォーラム主催により、「寒地 ITS ワークショップ(兼第25回寒地道路連続セミナー)」を開催しましたので、以下に報告します(写真－1、表－1)。なお、「寒地 ITS ワークショップ」は、平成16年より開催され、今回で5回目の開催となりました。

2. 基調講演と話題提供

初めに、基調講演では、北海道大学大学院工学研究科 岸邦宏准教授から「北海道における住民の生活を支える ITS」と題し、生活関連サービスレベル低下時における住民の定住意識の定量化を行い、定住意識を維持・向上させるための社会資本のあり方について、ご講演をいただきました。さらに、地域の経済的基盤

表－1 寒地 ITS ワークショップの議事次第

開催日時	平成20年8月29日(金) 13:30～17:00
開催場所	(独)土木研究所 寒地土木研究所 1階講堂
研究発表テーマ	“地域とITS”
開会挨拶	寒地土木研究所 審議役 西村泰弘
基調講演	「北海道における住民の生活を支えるITS」 北海道大学大学院工学研究科 岸邦宏准教授
話題提供	「SKYプロジェクト～Eco&Safety 北海道・横浜での取り組み～」 日産自動車(株)IT&ITS開発部 藤倉利之課長
第1セッション	「車車間通信を利用した安全支援システム開発の実証実験」 網走市役所企画総務部企画調整課 田口桂課長
	「ドライブレコーダの最新活用事例」 ソリトン・コム株式会社 野田竜也代表取締役
	「北の道ナビに見る道路情報提供の価値について」 当所雪氷チーム 緒方研究員
第2セッション	「渋滞情報データのマイニング：札幌都市圏の事例」 (株)ドーコン交通事業本部交通部 有村幹治主任技師
	「ニセコ町のまちづくりに貢献するITS」 ニセコ町役場企画課 加藤紀孝課長
	「車載搭載型道路状況画像処理システムとカード型GPS装置の開発」 サンコーコンサルティング(株)道路部道路課 沼田実課長
閉会の挨拶	「道路管理用画像を利用した道路視界情報提供システムの開発」 北海道開発局札幌開発建設部道路調査課 田宮敬士第2調査係長
	北海道ITS推進フォーラム監事 石本敬志

を支え、文化的基盤をつくる ITS を目指すため、冬期道路の走行に関するリスク受容や積雪寒冷地型 ITS の評価についての調査結果をご報告いただきました(写真－2)。

次に、話題提供として、日産自動車(株) IT&ITS 開発部 藤倉利之課長から「SKY プロジェクト～Eco&Safety 北海道・横浜での取り組み～」と題し、「クルマ」の進化



写真－1 寒地 ITS ワークショップの開催状況



写真－2 北海道大学大学院工学研究科 岸邦宏准教授

だけでなく、「人」や「社会」まで含めた総合的な取り組みで、環境・安全の未来社会を実現することを目的とした“SKY プロジェクト”において行われている、先進的な取り組みに関するご講演をいただきました(写真－3)。

3. 第1セッションの内容

第1セッションは、3件の研究発表があり、内容は以下の通りです。

- 網走市役所 企画総務部 企画調整課 課長 田口桂氏：「車車間通信を利用した安全支援システム開発の実証実験」と題し、網走市がユビキタス特区の対象プロジェクト地域に決定されたため、その制度を活用し、積雪寒冷地における車車間通信の技術を利用した実証実験の紹介など。
- ソリトン・コム株式会社 代表取締役 野田竜也氏：「ドライブレコーダの最新活用事例」と題し、ドライブレコーダーが、緊急自動車の移動情報把握などに活用されていることや、また、これらのデータが“道路の走りやすさマップ”などへ応用されている事例の紹介など。
- 当研究所 雪氷チーム 緒方聡：「北の道ナビに見る道路情報提供の価値について」と題し、高度化を行った“距離と時間検索”機能について、高度化前の事前調査と高度化後の事後調査を行い、道路情報提供の価値を検証した結果報告など。

4. 第2セッションの内容

第2セッションは、4件の研究発表があり、内容は以下の通りです。

- (株)ドーコン 交通事業本部 交通部 主任技師 有村幹治氏：「渋滞情報データのマイニング：札幌都市圏の事例」と題し、札幌市内で観測された渋

滞データを k-means 法でクラスタリングし、渋滞発生傾向と発生地点分布を分類、渋滞の時間・空間的な変動を把握した。それらデータから意味を抽出し、発想支援型の ITS データの加工方法の提示など。

- ニセコ町役場 企画課 課長 加藤紀孝氏：「ニセコ町のまちづくりに貢献する ITS」と題し、ニセコ町で取り組んでいる、景観・観光を活かす道路環境整備として、IT 技術を活用した「これだすシステム 農産物補給編・農産物集荷編」や、中心市街地「綺羅街道」の電線地中化や街路整備による環境・景観づくり、それに伴う超高速通信環境の整備事例。さらに、町内循環バス「ふれあいシャトル」などの取り組み事例の紹介など。
- サンコーコンサルタント(株) 道路部 道路課 課長 沼田実氏：「車輛搭載型道路状況画像処理システムとカード型 GPS 装置の開発」と題し、近年、冬期路面管理調査の中でも自動計測方式が用いられているが、調査費用が高額となる場合が多い。このたび、普通乗用車へ車載可能な簡易着脱方式の計器アタッチメントと撮影処理装置、メモリカード式多チャンネル GPS 装置を開発し、これらの技術紹介など。
- 北海道開発局 札幌開発建設部 道路調査課 第2調査係長 田宮敬士氏：「道路管理用画像を利用した道路視界情報提供システムの開発」と題し、一部、インターネットなどでも公開されている既存の道路管理用画像(CCTV カメラ画像)を活用し、視界状況などを数値化、ランク付けすることにより、一般の道路利用者にもわかりやすく情報提供を行う RVIS(Road Visibility Information System)を、一般国道230号と231号において試験運用し、その精度や効果などの評価を行った結果報告など。

5. おわりに

当日は、北海道開発局などの行政機関や研究機関、コンサルタントなどの民間企業から、約120名のご参加をいただき、活発な議論が交わされました。

なお、本ワークショップの詳細、及び今後の寒地道路連続セミナーの開催予定などは、随時、寒地道路研究グループの Web サイト(<http://www2.ceri.go.jp/jpn/>)に掲載いたしますので、ご参照いただきますよう、よろしくお願いいたします。

(文責：雪氷チーム・地域景観ユニット 松島 哲郎)



写真－3 日産自動車(株) IT&ITS 開発部 藤倉利之課長